

## 薬酒 (屠蘇)

漢方薬局 招き猫  
株式会社 河童堂本舗  
招き猫 調剤薬局  
斉藤 正勝

屠蘇散の由来は、最古の記述は『小品方』（晋・陳延之 ちん えんし）に記載があります。

「屠蘇酒は、此れ華陀の方（処方）なり。以って伝えて曹武帝（三国魏の曹操）に授け、専ら世に行わる。元旦、之を飲めば疫癘（えきれい）一切の不正の気を避く」1400年前の屠蘇散の処方内容が掲載されています。

日本には、今から約千二百年前811年(弘仁2年)平安時代 嵯峨天皇の時、唐から医師博士「蘇命」が和唐使として来朝し、「屠蘇白散」という薬を嵯峨天皇に献上して以来、天皇が元日から三日間、お神酒に浸して用いたのが始まりです。

今回は今までの屠蘇の実習体験と、時代に合わせて食品による屠蘇を考える事をテーマにします。食品であれば当然薬効を表記は出来ませんが、本来の意味を十分に理解して、どうアレンジすれば良いかを《雑病源流犀燭》(ざつびょうげんりゅう さいしよく)も踏まえて話させていただきます。

### 屠蘇飲 (屠蘇酒 (二))

【配方】白朮 54 克、大黃、桔梗、川椒、肉桂各 45 克、  
虎杖根 36 克、川烏 18 克。

【制法】將上薬為末，装入絹袋中，元旦前一日，將盛有薬物的絹袋沉入井底，  
第 2 天正月初一早晨取薬，浸入一瓶清酒中，煮数沸后飲用。

【主治】預防瘟疫等伝染病。

【用法】适量飲用。

【説明】川烏含有烏頭碱，属劇毒成分，一定要使用泡制過的烏頭，  
并应掌握用量，以保証用薬安全。

【摘自】《雑病源流犀燭》